拓水

TAKUSUI
No. 686

12
December. 2013

発行（一財）兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

但州丸と神戸ポートタワー（神戸市 写真撮影：ＪＦ兵庫漁連 宗和貴光氏）

瀬戸内海を豊かな海として再生するための法整備に向けた運動について

平成25年度 兵庫県水産賞受賞者 表彰式

《今月の海上安全標語》 ～夜間は「暗い海」としてね ～

漁船の事故で多いのが衝突。作業中に他船が接近していることも…。見張りは重要です!!

忙しい　ときこそ見よう　あおい海 では、来年も安全操業で!

ようそろ

～ずっと真っ直ぐに～

（ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

「沈下橋」のある風景に思うこと

兵庫県農政環境部農林水産局漁港課 副課長兼構造改善係長
平石 靖人

沈下橋をご存じでしょうか。水面近くにある欄干のない橋で増水すれば水面下に沈み渡れなくなる橋のこと。私が沈下橋を初めて知ったのは、かれこれ30年以上前。当時創刊されたアウトドア雑誌に、著名なカヌーイストが四国の四万十川を川下りする記事が掲載されており、子供が飛び込む風景の中心に鎮座する沈下橋の写真は、私の心に強い衝撃を与えたのでした。

その後、東京で大学生活を送っていた時、ひょんなことから埼玉県に沈下橋があることを知り、バイクを走らせた私の目に飛び込んできたのは、立派な永久橋（水面下に沈まない橋つまり普通の橋）の建設工事現場でした。ふと下流側に目をやると撤去されそうな沈下橋がありましたが、工事の影響で流れる水は汚く、遊んでいる人は皆無で、デイパックに忍ばせた海パンとシュノーケルを取り出すこともなく、期待に膨らんだ胸は急速にしぼみ帰路に就きました。それ以来、沈下橋への思いは心の片隅に追いやられてしまったのです。

ところが、昨年、眠っていた沈下橋への憧憬を思い出させる番組が放送されました。NHK「仁淀川 青の神秘」という番組です。仁淀川は四国の石鎚山を源流とし、高知市に流れる川ですが、その水を仁淀ブルーとして紹介されたものです。番組で知ったことですが、その水質は環境庁により、日本一に選定され、親水性も日本一と言われ、1㎞あたり水辺で遊ぶ人口も日本一だそうです。沈下橋から飛び込む人を「川がき」と呼び、川の門番として紹介する映像もありました。これは行くしかありません。

そして今年8月下旬、カヌーにハンモックを詰め込み仁淀川へ二泊三日の川旅に出かけてきました。川は蛇行を繰り返し、その度に、大きく深い淵と広大な河原が目に飛び込んで来ます。河口近くでも浅いところでは川底の玉石が手に取るように見え、水の透明度は想像以上。昼食に立ち寄ったうどん屋で地元の人が、「高度経済成長に取り残された川なんや、でも昔と変わらんええ川や」と言った言葉が印象に残ります。

今回の川下りでは、四駆であれば水辺際ぎりぎりまで近づける河原が沢山あり、小さな集落ごとにある沈下橋に代表されるように川が生活の一部になっていることを実感。最終日に仁淀ブルーの撮影地となった支流の安居渓谷を訪れ、その周辺の原生林を見て、仁淀川の豊かさはこの森と広大な河原のおかげだと体感しました。川に潜って見ると水清くして魚多しです。

森・川・海という言葉をよく耳にします。皆さんも一度仁淀川を訪れて見てはいかがでしょうか。日本の原川をとどめたこの川を眺めているだけで幸せな気分に浸らせてくれます。

CONTENTS

No.686 December. 2013

2 ようそろ
3 瀬戸内海を豊かな海として再生するための法整備に向けた運動について
我が国漁業の存続を求める漁業代表者緊急要請集会
4 “平成25年度兵庫県水産賞”受賞者決定
明石市議会議員と意見を交わす
5 漁業者によるシートクラブ料理教室 開催
新ＪＦ組合長のご紹介
6 洲本市で「漁業者の森づくり」
ＪＦ津名の新しい荷さばき所 竣工式
7 親子でジャンボ巻き寿司に挑戦
平成25年度 兵庫県水産系統団体役職員ＯＢ会総会
8 全国豊かな海づくり推進協会が「集い」開催
9 ＪＦ家島の海上釣堀センターで学習会開催
但州丸が帰港
10 ＪＦ神戸市で“命を守る運動”海上安全講習会 開催！
海難事故をなくそう！
11 兵庫JCC通信
12 旬に想う
大輪田塾だより

表紙の言葉

「但州丸と神戸ポートタワー」（神戸市）

今年も無事に実習を終えた但州丸の帰港式が、船籍のある神戸港で行われました。

船の横に写っているのは、世界初のパイプ構造の観光タワーとして昭和38年に開業した神戸港のシンボル「神戸ポートタワー」です。阪神淡路大震災では、港が大きな損傷を受けた中、1ヵ月足らずでライトアップを開始し、復興へのともしびとして被災者を勇気づけました。

今も市民や観光客に愛されるこのタワーは、今年で開業50周年を迎えました。

瀬戸内海を豊かな海として再生するための法整備に向けた運動について

JF兵庫漁連 指導部

ワーキングチーム会議の様子

11月7日（木）、兵庫県水産会館において「瀬戸内海関係漁連・漁協連絡会議 平成25年度第3回ワーキングチーム会議」が開催されました。この会議は平成23年度から、瀬戸内海に面する10府県の漁連・県漁協が一堂に会し、瀬戸内海を豊かな海として再生するために話し合う場として継続して行われており、今回は、自民党国会議員で組織する「瀬戸内海再生議員連盟第5回勉強会」に向けて、各府県の取組事項と要望内容の確認や、環境省・水産庁に対して中央要請を行うことが決定されました。

これを受けて、同連絡会議は、11月28日（木）東京の霞ヶ関において、自民党本部で開催された「瀬戸内海再生議員連盟第5回勉強会」に同連絡会議代表者らが臨席しました。

この勉強会には兵庫県井戸知事、香川県浜田知事が呼ばれ、それぞれヒアリングを受けました。井戸知事は「瀬戸内海の再生に向けた課題と対策試案を説明するので、再生法のような形でまとめて貰い、瀬戸内海の再生が計画的に進められるような体制が作られることを願っている」とされ、浜田知事は「瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生するためにも、瀬戸内海環境保全知事・市長会議の提唱する法整備を始めとした提案事項の実現が必須」と発言されました。また、同連絡会議を代表しJF兵庫漁連 山田会長より「漁村は関連産業も含め漁業とともに生活をしている。瀬戸内海が再生しなければ漁村集落が寂れて、結果として地域の経済や日本経済にとっても悪影響を与える。瀬戸内海だけでなく、日本全体の沿岸漁業を衰退させないためにも、栄養塩の見直しをお願いしたい」と漁業者の立場で要請いたしました。

勉強会では、末松 信介事務局長より、「今ここで直ぐには結論は出ないが、塩崎 恭久会長と相談したところ、プロジェクトチームに5人くらい入って貰って、具体的に環境省・水産庁とも折衝しながら、どういう改正が望ましいか慎重に勉強してはどうか」と提案があり、議員連盟として承認されました。また、同連絡会議は、同日に環境省小林水・大気環境局長、水産庁本川長官に対して中央要請を行い、瀬戸内海の漁業者の窮状を訴えるとともに、一刻も早く瀬戸内海を豊かな海として再生するための法整備を求めました。

今後も、瀬戸内海関係漁連・漁協連絡会議では、瀬戸内海を豊かな海として再生するための法整備に向けて運動を継続していきます。

瀬戸内海再生議連勉強会にて意見を述べる山田会長
（写真左から、浜田香川県知事、井戸兵庫県知事、塩崎議連会長、末松（参）議員）

環境省小林水・大気環境局長に要請

水産庁本川長官に要請

我が国漁業の存続を求める漁業代表者緊急要請集会

JF兵庫漁連 指導部

自民党での集会の様子（写真提供：JF全漁連）

12月4日（水）東京都の自民党本部において「我が国漁業の存続を求める漁業代表者緊急要請集会」が開催されました。全国から漁連・信漁連・共済組合・業種別団体の代表者など約130人が参集し、本県からもJF兵庫漁連 山田 隆義会長、JF兵庫信漁連 里 昭彦専務、兵庫県漁業共済組合 川越 一男組合長、全底連 吉岡 修一会長が出席しました。

これは急激な円安による燃油等コストの上昇によって出漁すら出来ない状況の中で、放射能汚染水問題の風評被害によって深刻化する水産物消費の減少と魚価低迷による減収は、漁業経営を危機的な状況に追い込んでいることから、我が国漁業の存続を図るための燃油使用量に応じた支援を行う「緊急対策」を補正予算で確立することを要請するための緊急集会でした。

集会ではJF全漁連 岸 宏会長の挨拶の後、JFみやぎ 菊地経営管理委員会会長が意見表明を行い、JF全漁連 小川副会長が要請案を朗読し、満場の拍手を持って決議されました。会場には120人を超える国会議員が出席し、代表して大島 理森自民党水産政策推進議員協議会会長が、予算編成に向けて全力を尽くすことを約束しました。

集会後、山田会長は、JF全漁連 購買部会長として、吉川貴盛農水副大臣、本川 一善水産庁長官への代表要請にも同行し、要請事項の実現を訴えました。

こうした要請を受けて、12月5日（木）に開催された、自民党水産基本政策小委員会・自民党部会では、漁業用燃油緊急対策として、①省燃油活動推進事業、②省エネ機器等導入推進事業、③漁業構造改革総合対策事業の各事業が打ち出されました。

農林水産省で要請を行いました（写真提供：JF全漁連）

県農林水産業の功労者表彰 “平成25年度兵庫県水産賞” 受賞者決定

受賞者の皆様（左から 石塚様ご夫妻、井上様ご夫妻、福岡様ご夫妻）

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が11月26日（火）、県公館（神戸市中央区）で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はＪＦ神戸市 井上 隆さん、ＪＦ津名 福岡留次さん、ＪＦ但馬 石塚 保雄さんの3名の方が受賞されました。表彰式では井戸敏三知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。

受賞された皆様には、心よりお慶び申し上げます。

氏　名	所　属	功　績　内　容
井上　　隆	ＪＦ神戸市	資源管理型漁業の推進と漁協経営の安定化
福岡　留次	ＪＦ津名	船曳網漁業の振興とワカメ養殖技術の確立
石塚　保雄	ＪＦ但馬	津居山地区の漁業振興とズワイガニ資源回復への貢献

（敬称略）

明石市議会議員と意見を交わす
～明石市漁業組合連合会が初めて開催～

（一財）兵庫県水産振興基金

活発な意見交換の場となりました

明石の漁業の現状を伝えました

明石市漁業組合連合会（山本 章等会長：ＪＦ西二見）は、11月6日（水）兵庫県水産会館で「平成25年度 明石市議会議員勉強会」を開催し、明石市内の5ＪＦ（ＪＦ明石浦、ＪＦ林崎、ＪＦ江井ヶ島、ＪＦ東二見、ＪＦ西二見）の組合長、明石市議会議員（参加27名）をはじめ、明石市、系統団体の関係者ら約40名が集まり意見を交わしました。

この会は「魚の町 明石」でも明石市の水産業が厳しい現状にあるなか、活性化に向けて市議会議員と意見を交わす場として、同連合会が呼び掛け、初めて実現したものです。開会にあたり山本会長は「明石市は海と切っても切れない街。その明石の水産業の現状は厳しく、今後の活性化に向けたお知恵をお借りしたい」と挨拶されました。漁業の現状について理解してもらうために、ＪＦ明石浦 戎本 裕明組合長が話題提供を行い、明石市内の漁業種類や漁獲量のほか、日本における魚介類の輸入や消費の現状、そして「きれいな海は豊かな海？」と題して、豊かな海を取り戻すための様々な取り組みを紹介しました。続く、意見交換では、議員から「海の環境の影響はどのようなものか」、「市内の小学校だけでなく中学校でも給食が始まるなかで、水産物をどのように組み込んでいくのか」といった質問が多く出され、それに5ＪＦ組合長が答える形で会は進行しました。

参加した議員からは「栄養塩がノリだけでなく、魚にも影響することが分かった」、「豊かな海には豊かな森林が必要であるといった内容を教育の場に取り込むべき」、「地域住民を巻き込んだ取り組みが必要」といった意見・感想が寄せられました。今後も漁業者との対話を進めて、この会を継続していくことを確認して終了しました。

漁業者によるシートクラブ料理教室 開催

～ガザミふやそう会とJF由良町 渡邊氏が務める～

（一財）兵庫県水産振興基金

JF兵庫漁連（山田 隆義会長）が運営しているSEAT－CLUB（シートクラブ）では、毎日、多彩な講師による料理教室を開催しています。この度、同教室の取り組みの一環で、ガザミふやそう会（大角生馬会長）による「旬を楽しむ教室 ～ワタリガニ（ガザミ）～」と、渡邊 直さん（JF由良町監事）による「漁師さんの簡単お魚クッキング」を開催しました。

ガザミふやそう会による教室は、11月5日（火）水産会館の調理実習室で行われました。はじめに大角会長からガザミの種類や、ガザミふやそう会の取り組みについて説明があり、実習では大角会長のほかJF兵庫漁連 隅谷 翠主任が加わり、ガザミを使った「蒸しガニ」、「味噌汁」を作りました。用意されたのは立派なサイズのガザミで、その大きさに驚いた参加者が、ガザミを締めるところから実習は始まりました。大角会長は締め方を教えながら、オス・メスの見分け方や「死んだカニは目が飛び出す」などの話をし、参加者はメモを取りながら調理を楽しみました。出来上がった料理に、参加者からは「今までガザミを調理する機会がなかった。けれど、大変美味しかった。今後も試してみます」との声があり、ガザミの魅力を十分に堪能できた教室となりました。

ガザミについて説明する大角会長

カニの捌き方も実演しました

11月19日（火）に同じく実習室で開催された渡邊さんの教室は、大型のアジを1尾使い、3品を作るというものでした。渡邊さんは元和食料理人で、持参した包丁を使った慣れた手つきと分かりやすい説明で、素早くアジを捌き、参加者はその手つきに見入るほどでした。作ったのはタタキ、南蛮漬け、すまし汁で、骨やアラもきれいに使い切って、なおかつ簡単な料理法を伝授するなか、ちょっとした手間を掛けることで美味しく仕上がった料理に、皆さんは満足されたようです。教室を終えて渡邊さんは「魚は鮮度の良いものを使って、素材の味を楽しんでもらいたい。こういった活動を通して、大人だけでなく子供にも魚料理の良さを知ってもらえたらいいと思う。そして魚食を普及することで魚価向上に繋がっていけば」と話されました。

JF兵庫漁連では、シートクラブでの料理教室を通じて県内産水産物の魅力を伝える活動を行っています。只今、この活動にご協力いただけるJF・青壮年部・女性部の方を募集しているとのことです。興味のある方は、是非、シートクラブ（TEL：078－917－4137）までご連絡下さい。

分かりやすい講習は好評でした

講師を務めた渡邊さん

新JF組合長のご紹介

平成25年10月～11月までの間に、新たにJF組合長に就任された方の御名前をご紹介させていただきます。

●JF坊勢　代表理事組合長　岡田 武夫氏（10月19日就任）

※（一財）兵庫県水産振興基金確認分

洲本市で「漁業者の森づくり」
～バベ・ヤマモモ・アキニレなど600本植樹～

（一社）淡路水交会

一般社団法人 淡路水交会（前田 吉計会長）では、毎年この時期に「漁業者の森づくり」事業として、関係機関の後援と協力を得て、バベなどの植樹を行っています。同会は、平成4年から始まったJF南淡の取り組みを引き継ぎ、平成19年からアオリイカを増やすためバベ（ウバメガシ）の枝を使った柴漬けによる産卵床造成事業を進めるなか、必要なバベ等を育てる森づくりを、漁業者と一般県民が力をあわせて行い、環境保全と地域への貢献を図ろうという趣旨で始まったものです。今年は11月12日（火）、洲本市の猪ノ鼻ダム周辺で開催され、平成22年に植樹を行った場所のすぐ隣であり、参加者らは順調に育つ木々を見つつ作業を行いました。

当日集まったのはJF、行政、系統団体などからの約120名で、前田会長は開会挨拶で「植樹によって豊かな海がつくられるという漁業者一人ひとりの意識が大切」とされ、参加者にさらなる理解を求めました。また、地元の洲本市立由良小学校4年生児童12名も参加し、作業前に県洲本農林水産振興事務所 田中 洋課長補佐がこの活動について説明を行いました。

参加者らは造園業者から植樹方法の説明を受けた後、約1時間に亘り、バベ、ヤマモモ、アキニレなど600本を植樹したほか、成長を阻害する恐れのある大きな石などを取り除きました。作業終了後にはアオリイカの天ぷらがふるまわれ、揚げたてアオリイカの美味しさに、皆、満足げな様子でした。

参加してくれた由良小学校の子ども達

一本一本、丁寧に植えられていきました

JF津名の新しい荷さばき所 竣工式
～約80人が出席し完成を祝う～

（一財）兵庫県水産振興基金

11月28日（木）、淡路市の生穂漁港で、大漁旗を揚げた漁船も接岸し、JF、系統団体、行政の関係者ら約80人が出席するなか、JF津名（中田 勝組合長）の新しい荷さばき所の竣工式が行われました。

JF津名では、平成19年4月に塩田・志筑浦・生穂・佐野の4JFの合併を受け、販売事業の効率化を図るために荷さばき施設を集約し、新たな建設を目指した協議が行われてきました。今年4月には引き渡しが行われ、24日には式を行う予定でしたが、13日の淡路島付近を震源とする地震（震度6弱）で被害を受けたため、約7ヵ月をかけて復旧工事を行ってきました。

式典では、中田組合長が「新しい荷さばき所を活用し、漁獲量の安定、魚価向上に繋げていきたい」と挨拶をされ、集まった関係者らは施設の水槽などを見学し、新しい施設の完成を祝いました。

親子でジャンボ巻き寿司に挑戦

JF兵庫漁連 広報部

11月10日（日）、兵庫県海苔問屋協同組合（会長：松谷 晃氏）とJF兵庫漁連SEAT―CLUBは、おいしい兵庫海苔をPRするため親子イベント「親子でジャンボ巻き寿司に挑戦！」を兵庫県水産会館で開催し、明石・神戸市内から約50名の親子が参加するなか、会場は大いに賑わいました。

はじめに、参加者には、高級ノリ、業務用ノリ、および量販店で安価に購入できるノリと、3種類の味比べをしてもらい、「色」、「香り」、「食感」などノリの美味しさを実感してもらった後に、全長9mのジャンボ巻き寿司づくりに挑戦しました。

長く敷きつめた巻き簾の上に、ノリ、酢飯、イカナゴのくぎ煮、玉子焼などの具を乗せて、芯がずれないよう、「せーの」の一声とともに、みんなで息を合わせて慎重に巻いていきました。

みんなで具材を乗せていきます

出来上がった9mの長い長い海苔巻きは、切り分けて参加親子皆さんで、お昼ごはんとしていただきました。

巻き寿司を口いっぱいに頬張る子供や、笑顔で美味しそうに食べている姿を見ると、兵庫のりの魅力が参加親子に伝わったことが実感でき、幸せな気持ちになります。

兵庫のりの魅力と美味しいものを作る楽しさ、食べる楽しさを体験し、最後に、修了証書と初摘み海苔をお土産に持って帰っていただきました。

今後も兵庫海苔問屋協同組合とJF兵庫漁連は、兵庫のりの魅力をPRしていきます。

「兵庫のり」の美味しさを今後もPRしていきます

美味しく出来ました！

平成25年度 兵庫県水産系統団体役職員OB会総会

11月30日（土）明石市内のホテルに於いて、平成25年度兵庫県水産系統団体役職員OB会総会が、会員32名の出席のもと開催されました。

開会にあたり、一年間に亡くなられた会員に対して出席者は黙祷を捧げ、冥福を祈りいたしました。

その後、田尻幹事長より「年に1度の再会の場であり、今日は多いに楽しみ時間の許す限り懇親の輪を深めて下さい」と挨拶されました。続いて、来賓のJF兵庫漁連 山田 隆義会長から、「燃油高騰、魚価安、豊かな漁場再生等、漁業を取巻く環境は厳しいですが、漁業者のために系統団体をあげて諸課題に取組んでいきますのでご指導ご鞭撻お願いします。」と祝辞を述べられました。

田尻幹事長が議事進行を行ない、議案の収支決算報告及び収支計画は原案どおり承認されました。また、幹事の改選については、現幹事全員が留任し、田尻 重孝幹事長、岡本 敏夫副幹事長、富永 剛行会計担当幹事、宮本 泰男幹事、山里 昌幸幹事、榎並 晴広幹事の計6名が引き続き幹事を務めることに決定しました。

総会に引き続いて、兵庫県水産振興基金の戸田専務の乾杯の音頭により懇親会が始まり、和やかな雰囲気の中、カラオケによる自慢の喉を披露するなど、時間の経過も忘れて歓談がすすみました。

最後に岡本副幹事長から「元気で、また来年会いましょう」と力強い閉会の挨拶を述べた後、万歳三唱により懇親会は終了いたしました。

祝栽培漁業50周年 心新たに発展を誓う
全国豊かな海づくり推進協会が「集い」開催
（一財）兵庫県水産振興基金

我が国の栽培漁業発展の礎となった㈳瀬戸内海栽培漁業協会が設立されて満50年。全国豊かな海づくり推進協会（岸宏会長）の「我が国栽培漁業の50周年を祝い、今後の発展を誓う集い―『栽培漁業のあゆみ50年』刊行記念―」が11月19日（火）、東京・霞ケ関の東海大学校友館で開催され、政府国会、諸団体、栽培漁業関係者ら約200人が出席して全国豊かな海づくり大会の歴史を映像で振り返りながら、今後のさらなる発展を誓い合いました。主催者の岸会長は冒頭の挨拶で50年の歴史を振り返り、「栽培漁業が沿岸漁業に果たしてきた役割は極めて大きい。栽培漁業の今日があるのは先人の汗と涙と血の滲むような努力の賜物があったから」と関係者に謝意を表すとともに「日本の漁業は厳しく、今が正念場。TPP、震災、魚価低迷、燃油高など明るい材料がないがピンチはチャンスであり、漁業を再興できる最後の機会だ。漁業者が連携し、自ら成すべき事をやれば将来展望は開ける。古来の素晴らしい漁場を進化させるため、自然と協調した海づくりが重要。漁業の再生の中で栽培漁業が大きな役割を果たすよう、今まで以上のお力添えを」と述べた。また、来賓の林 芳正農林水産大臣は「長い歴史の中で、栽培漁業で育てて海を豊かにしてきた。地道な取り組みで海を持続可能な資源の宝庫として守っていくことが大事だ。50年を契機に、今後の発展へ互いにやり遂げることを誓う」と祝辞を述べられた。次いで、鈴木俊一衆議院議員が「昭和52年、二百海里時代の幕開けで栽培漁業が本格化。水産業は厳しい局面にあるが、もう一度つくり育てる漁業で資源を守り育て、大切にしながら日本漁業が再生できるようにしたい」とされ乾杯の音頭をとられた。

挨拶をおこなう岸会長

〝人の手で豊かな海を築く〟栽培漁業の取り組みは、本県に深い関わりがあります。㈳瀬戸内海栽培漁業協会は、我が国経済の急成長に伴い、重要な食料源である沿岸資源の再生産の場が荒廃し、疲弊した沿岸漁業の振興を図る栽培事業の受け皿として国主導で設立されたもの。本部を旧兵庫県水産会館（神戸市兵庫区）に置き、初代会長は金井元彦兵庫県知事、副会長は三浦清太郎兵庫県漁連会長が就任され、当時の栽培漁業を牽引する大きな役割を果たしました。その理念と技術は全国に広がり、日本の沿岸漁業を下支えしてきましたが、50年を経て、本質論が歴史のなかに埋没しつつあります。昨今、国、地方自治体には、行財政改革の名の下に公的支援の圧縮や打ち切り、自立化を求める動きがあるようです。漁業者にとって由々しき事態です。いま、食料安保の観点や漁業資源の確保、国境問題等々多面的な機能の発揮が強く求められ、漁業の再生が喫緊の課題とされているおり、栽培漁業へ、今以上、公的支援の圧縮が続けば持続可能な沿岸漁業は実現しがたく、その歯止めに漁業者の結束した運動が必要です。また、一般論で栽培漁業の受益者は漁業者との声がありますが、名指しされた当事者の反発は大きい。海洋資源は国民の共有物であり食糧資源であるという共通認識のもと、栽培漁業は日本経済の急成長の「ひずみ」がもたらした沿岸資源の荒廃を、人の手で豊かな海を築くという高邁な理念で発議された経緯や、漁業者は生業の中で僅かな食料と漁業収入を得ているが、生産物の総ては国民食料に提供されており、真の受益者は誰かといえばそれは国民であり、漁業者は海と国民を結ぶ仲人に過ぎない。栽培漁業は、国（公）の財産保全上絶対維持が必要でしょう。瀬戸内海栽培漁業協会当時でも国が必要な種苗生産施設をつくり、その管理運営は全額国費で協会に委託する方式で、資源増強は国（公）の役割とされてきました。国、県は財政難の折ですが栽培漁業の重要性を再認識いただき「漁業再生」に不可欠な栽培漁業に一層のご支援を願うものです。（U／T）

林農林水産大臣もお祝いに駆けつけました

自民党 大島理森議員、鈴木俊一議員をはじめ多数の国会議員が出席されました

JF家島の海上釣堀センターで学習会開催

播磨地区漁協職員協議会

播磨地区漁協職員協議会（藤田 次男会長：JF西二見）は会員組合内の様々な事業について学び、知識を深めようと、毎年、学習会を開催しています。今年は、JF家島（中村 利公組合長）の協力のもと、同JFの「釣堀」事業について研修を行いました。

今回の研修内容は、昨年実施されましたが悪天候だったため、今年もう一度行うこととなったもので、会員JF職員のほか、系統団体職員も参加した総勢26名が姫路市妻鹿漁港から家島町の釣り堀に向かい出港しました。現地ではまず、JF家島の担当者より事業内容について説明がありました。20m四方×2台をはじめとする足場の良い生簀を多数の備えた当センターは、貸切対応可能で250名が楽しめる施設です。港に車を止めてから同センターまでの直行便を有し、貸し竿、エサのほか、職員らが釣った魚を捌いてくれたりと、家族連れが手軽に楽しめるようになっています。また、多く釣りすぎた人のために天然魚と交換するなどのサービスで、休日は大型魚を求める釣り人で賑っているとのことでした。

このあと、参加者らは釣堀体験として、実際に魚釣りを行いました。エサ付けなど、担当職員らから指導を受けたのち、仕掛けを海中に入れると、すぐにウキにアタリが出て、皆、次々とマダイを釣り上げていました。また活きエサとしてアジをつけた人には大型のブリ、カンパチが掛かり、その強烈な引きに慌てながらも楽しんでいました。帰りは釣れなかった人にもマダイ1尾が渡され、楽しく学習会を終えることが出来ました。

▲大きなカンパチが掛かりました！

▶妻鹿漁港から約30分の船旅へ

但州丸が帰港

～県立香住高等学校の航海実習～

兵庫県立香住高等学校 海洋科学科2年生オーシャンコースの生徒10名を乗せた実習船「但州丸」は、マグロ延縄漁業など所定の実習を終え、船籍港である神戸港に帰港しました。

11月22日（金）の帰港式は、神戸港中突堤D岸壁に停泊中の但州丸の前で、学校、水産業界関係者や生徒の保護者など多くの参加のもと行われました。

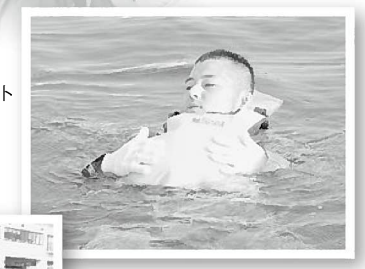
来賓として出席したJF兵庫漁連 山田 隆義会長は「水産業を取り巻く環境は大変厳しいが、是非とも水産業界へ進んでいただき、将来を背負う人材になっていただきたい。」と挨拶し、実習生の代表に記念品を手渡されました。また実習生代表からも力強い抱負が述べられました。

今年は10月18日（金）に香住港を出港し、下関・長崎・清水港を経て、マグロ延縄漁業を実習を行い、神奈川県三崎港を経由した後、神戸港に帰港しました。

この後、但州丸は23日に神戸港を出港、25日に香住港に入港し、約40日間の実習を終えました。

開業50周年を迎えた神戸ポートタワーと但州丸「長旅お疲れ様でした」

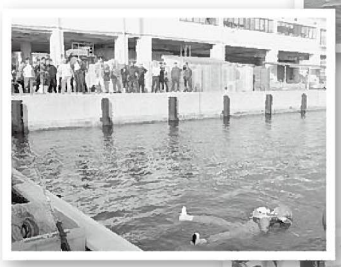
▶祝辞を述べられる山田会長
実習を無事終え、凛々しい表情に



▶ハイブリッド式ライフジャケット
（固型式・膨張式の併用型）

ＪＦ神戸市で“命を守る運動” 海上安全講習会 開催！

～ライフジャケット作動体験や救命救急講習を実施～



◀漁港での実演の様子

▼多くの方が体験しました

11月8日（金）、ＪＦ神戸市（山田 隆義組合長）は、神戸海上保安部より講師を招いて“命を守る運動”海上安全講習会を開催し、組合員・女性部など関係者ら約70名が参加しました。

講習会では、まず、屋内で神戸海上保安部 海上保安官から膨張式ライフジャケットの作動体験やメンテナンスを学びました。次に漁港において、海上保安官による様々なライフジャケットを着用しての実演を見学し、その浮き方や膨張の様子を確認しました。海上保安官は、膨張式ライフジャケットについて「落水から膨らむまでに時間が掛かることを知ってもらいたい」とされ、慌てず落ち着いた対応をとるよう話されました。また、浮力合羽の実演も行われ「ライフジャケットの補助的なものだが、十分な浮力がある」と紹介しました。

最後に荷捌所にて救命救急講習を行い、訓練用マネキンを使って胸骨圧迫や、ＡＥＤの使用方法などを体験しました。胸骨圧迫の体験には多くの方が参加し、関心の高さが窺えました。最後に海上保安官は、これら心肺蘇生術については「とにかく助けるという強い意志で、勇気をもって実行してほしい」と締めくくられました。

事故を未然に防止するため

“命を守る運動”「海上安全講習会」 を県下各地で開催しております。

～講習会の開催申込みは右記団体まで～

この取組みは、平成22年よりＪＦや関係団体を対象に行っており、海難事故対策・ライフジャケット着用推進等の内容で開催しています。（この模様は本誌「拓水」で適宜紹介しています。）

講習会開催についてのお問い合わせは
ＪＦ兵庫漁連指導部まで
TEL 078－940－8013

海難事故をなくそう！

ライフジャケットを着用しよう！

メンテナンス不要の固型式ライフジャケット。体に合ったサイズを選ぶか、金具等で調整しましょう。

固型型ライフジャケット
モデル：兵庫県信用漁業協同組合連合会
西尾 留美さん

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。

神戸海上保安部 海上保安官による実演

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部（078－942－9272）までお問い合わせください

TPP交渉安易な妥協を許すな ～JAグループ兵庫役職員 与党議員に要請～

ＪＡグループ兵庫の役職員18人は10月２日（水）、日比谷野外音楽堂（東京都千代田区）で開催された『TPP交渉から「食と暮らし・いのち」を守り国会決議の実現を求める全国代表者集会』の終了後、都内ホテルで、県内選出自民党国会議員に対して環太平洋連携協定（TPP）交渉に関する要請を行いました。

ＴＰＰ交渉が年内妥結に向け加速している中、ＪＡ兵庫中央会の石田会長は「国民に十分な情報を開示するとともに、与党自民党の決議、衆参農林水産委員会における国会決議を遵守すること。農林水産分野の重要５品目などの聖域が確保できないと判断した場合には、即刻交渉から脱退すること」を強く求め、ＪＡ兵庫信連の北畑会長からＪＡグループ兵庫を代表して要請書を出席議員に手渡しました。

要請後、石田会長は「自民党の国会議員には地元のことをよく分かってもらっているが、現場の農業者の声をあらためて伝えた。ＴＰＰ交渉は正念場を迎えており、決して安易な妥協は許してはならない」と話されました。

要請書を手渡すＪＡの組合長

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

2013年度 兵庫県生協大会を開催

10月10日（木）、兵庫県民会館において、2013年度 兵庫県生協大会を開催。会員生協の組合員、役職員など350名がつどいました。毎年10月は「生協強化月間」。全国の生協で「活動や事業について知っていただき、生協の輪を広げるための催し」が行われます。

第１部・記念式典では「生協法施行65周年記念に係る兵庫県知事表彰」が４つの生活協同組合に。また、永年生協の発展に寄与された４人の会員生協役員に生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」が贈られました。そして生協業務に精励した23名の役職員に本田 会長理事より「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が贈られ、会場の参加者は大きな拍手で祝いました。

第二部は、「ひとりはみんなの為に みんなはひとりの為に 明日の子どもたちの笑顔の為に～スーダン・東日本大震災での活動～」と題して、特定非営利活動法人ロシナンテス 理事長・医師 川原 尚行様による講演がおこなわれました。「自分のできることは小さいかもしれませんが、無理せず、まず自分にできることをできるときにやっていくことが大切です」と、スーダンと東日本被災地での活動の様子をスライドとともにご講演いただきました。また、会員生協による「健康チェック」や「（公財）兵庫県健康財団」の取り組み紹介、兵協連「東日本被災地支援活動」報告、「兵庫県 パネル展示“かしこい消費者になりましょう！”」など、多くの参加者でにぎわいました。

▲講演をされる
川原尚行 理事長

▲医療生協による健康チェック

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

旬に想う

写真と文
遊方子

和食がいい

枯れ株

◆日本は世界一の長寿国になった。そして日本人の食事に熱い目が注がれている。和食のメリットは面倒なカロリー計算をする迄もなく、脂肪も摂取エネルギーも適度に抑えられている点にある。コメのご飯は良く噛むことで満腹感を得、穀類とおかずを交互に食べることが断然に良い。これが和食の善さである。和食の特徴は、洋食のようにバターやソース類を多用していないから、過度な油脂類を摂取せずに済むが、欠点として塩っ気の多さとカルシウムやビタミン類の不足にある。この欠点をどう改善するかが、大事な課題事項であろう。

◆一九七七年、アメリカ上院特別委員会で「米国の食事目標」が報告された。その中に、日本人の食生活がバランスのとれた理想的なものだとの記述があり、日本食ブームを起こす切っ掛けになった。肉や乳製品へ偏りがちなアメリカ人の食事への警鐘であり、高脂肪の肉類を避けて魚や穀類・野菜を食べようとする動きが起こったのである。コメ食が中心の和食は、炭水化物が六割前後を占めてエネルギー源となっており、基本的には魚と組み合わせてある。日本人の魚好きは、縄文時代から引き継いでいる、血統的なものだといえるようだ。

◆和食が無形文化遺産となれば、伝統ある食文化が世界的に認められた事になる。春夏秋冬の旬を生かした季節感、そして盛り付けの美しさに焦点が集まる。一汁三菜の食材には旬のものを使いたいが、野菜の旬が判り難くなっている。露地ものは出盛り期が一番である。魚は産卵直前と向寒期が特に旨い。和食の味は塩が決め手で、良さ加減の見極めが大事だ。和食のうち天麩羅のコツは衣にある。薄力粉は氷水で溶き、卵を合わせても余り混ぜない。タネを手早く通し約百八十度の油で揚げるが、一度に沢山揚げないことが大切だ。油の温度を下げない工夫である。美味しく食べる事が、世界に誇れるものだと思いたい。

◆レストランで和食の定食を頼むと、必ず刺し身が一品ついて来る。『魏志倭人伝』にも、魚鮑を捕るを好み、潜り漁法で魚や貝類を捕食して海藻も好んで食べたように記されている。赤身の魚はマグロ、白身ならタイのように思うが、最近は外来の新顔の魚も多く出回っている。回転寿司でヒラメのエンガワと思っているのが、実はカラスガレイであったり、和食弁当の焼き魚にニュージーランドやチリ産バラクータの切り身が利用される。美味しいし見栄えも悪くない。淡白な白身のメルルーサ、鯛にそっくりのティラピア、白身のフサカサゴの仲間など、和食の定番料理の中で大いに活躍の場を広げているようである。

大輪田塾だより

JF兵庫漁連と県内漁業について

11月22日(金)に行われた講座では、「JF兵庫漁連の事業概要について」と「兵庫県の漁業概要について」の2課題を開講しました。

「JF兵庫漁連の事業概要について」はJF兵庫漁連突々 淳参事が講義を行い、漁業を取り巻く現状や、JF兵庫漁連がどのような活動を行っているのか、何を課題にしているのかを解説されました。続く「兵庫県の漁業概要について」では県水産課 高木 英男副課長が、県内の漁業の特徴や現状のほか、今後進めていく施策について講義を行いました。それぞれの講義の最後には、グループに分かれて塾生間で意見を出し合って考えを整理し、質問や意見発表では、多くの質問が塾生から出され、しっかり学ぶことが出来たようです。

高木副課長の講義

塾生同士で講義の内容を整理しました

突々参事の講義

発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336